

## 第2回生物多様性ふくおか指標（仮称）検討委員会 議事要旨

■ 日時 平成25年2月14日（木）9：55～12：00

■ 場所 福岡市役所15階1505会議室

### ■ 出席委員

朝廣委員 九州大学大学院芸術工学研究員環境・遺産デザイン部門

荒井委員 九州歯科大学総合教育学分野環境科学

岩熊委員 まほろば自然学校

佐々木委員 オフィス・スタディーズ

矢部委員 九州大学大学院農学研究院農業資源経済学部門

横山委員 九州産業大学商学部観光産業学科

（欠席委員）

清野委員 九州大学大学院工学研究院環境都市部門

矢原委員 九州大学大学院理学研究院生物科学部門

※敬称略

### ■ 議事内容

生物多様性ふくおか指標（案）について

### ■ 配布資料

資料1 : 生物多様性ふくおか指標（仮称）の役割について

資料2 : 生物多様性ふくおか指標（仮称）案

資料3 : 個別ヒアリング時の委員意見と対応

参考資料1 : 生物多様性ふくおか指標（仮称）検討委員会設置要綱

参考資料2 : 委員会名簿

参考資料3 : 指標検討スケジュール

参考資料4 : 第1回委員会議事要旨

■ 委員会開催の挨拶

■ 資料説明（事務局より）

■ 議論

委員長：どこからでも構わないのでご意見いただきたい。いかがか。

委員：確認だが、生物多様性の健全性と生態系サービスの部分では指標が重複しているが、構わないのか。それとも他に良い指標が無く仕方なくこのような形になっているのか。

局：他に良い指標があれば加えても良いと考えている。

委員長：健全性と生態系サービスは独立関係にはなっていないと思われる。

事務局：重複に拘っている訳ではないが、結果として重複したという形である。

委員：項目があるからには、独立した指標があった方が良いのではないか。重複しても良いが、すべて重複しては項目の意味が無くなってしまうので、少し工夫していくつか重複しないものを加えるのはどうか。

事務局：何か良い指標が他にないか検討したい。

委員：2点意見がある。1点目は、資料1に記載している「評価結果の公表」の公表方法についてだが、これは数値のみを市民に公表するという事か。指標の考え方もあわせて周知しなければ、取り組みへの活かし方が見えなくなってしまう市民にも分かりにくい。仮に数値を評価するのであれば、誰がどのように行うのか。行政だけで行おうとすると批判が出てくると思われるので、第三者機関で評価する仕組みが必要と考える。委員会等で出された様々な意見をふまえると、見る側の読み取り能力に任せるのではなく、分かりやすく指標を公表する必要があると感じる。2点目として、プラットフォームの理想形は分かったが、どこが主体になるかがまだはっきりとしない。例えば意見を言おうにもどこが窓口か分からないと、意見も出せない。現時点ではっきりと事務局を示すのは難しいかもしれないが、窓口等運営の明確な形を作っておかないと、消滅してしまう可能性もあるのではと心配である。

委員：その意見に賛成である。プラットフォームの作り方について、実施主体が書かれていない。このままでは消滅してしまうと感じる。

委員：そのとおりである。事務局として、戦略をどう進めていくのか、プラットフォームとのかかわりなど、市側の案を提示して頂きたい。

事務局：公表の仕方について、数値だけの提示ではなく説明は必要と考えている。公表することで得られる意見を行政の取組み等に活かしていきたい。プラットフォームの取りまとめについては、行政になると考えている。ただし、行政だけでなく主体的に取り組んでいるNPO等とも協力して進めて行きたいと考えている。

委員長：少しまだイメージが抽象的ではないか。委員の指摘は、指標の数値が出たとき、行政だけでなく、例えばこの委員会の委員やNPOなどの第三者が、その解釈の仕方や公表方法等について、チェックやアドバイスする枠組みを決めるべきではないか、というご意見だったと理解している。

委員：そのとおりである。評価のやり方、考え方は示しておく必要がある。少なくとも市民に

示す評価は、指標の数値の意味、市としての目指すべき方向等をきちんと評価した上で示す必要がある。

委員：同感である。誰が調査を行い、どのように評価するのかという所をはっきり決めておく必要がある。フォーラムはイベントであり、継続して検討できる組織ではない。やはり、継続して取り組める第三者的機関、組織を作る必要がある。

委員長：組織作りの有無については委員会の決議事項になるか。

委員：例えば、指標を公表して出てきた様々な意見について、その意見にどのように対応していくのか。取捨選択は誰が判断して進めていくのか、責任の所在がはっきりしていないという印象を受ける。今の時点で明確な提示はできなくとも、少なくとも考え方や方向性は示していかなければならない。

事務局：指標で出した結果を分析する機関については必要性を感じる。

委員長：指標の結果公表にあたって、分析までいかななくとも、第三者のアドバイス、意見をまとめる場を作ることを本委員会としては求めたい。

事務局：評価指標は進行管理だけでなく、誰が評価するかを考えることが重要であると認識している。行政だけで行うと自己満足になる危険性があるので、様々な方から意見を頂いて評価し、次の施策に反映していく必要はあると考えている。他の協議会に混ざって議論するなど、何らかの形で第三者協議のしくみを作りたい。またプラットフォームについても、現在既にある施設を使った運営方法について検討している。指標を使ってどう評価していくのか、内容を詰めた上で、委員の皆様には改めてご相談したい。

委員：ふくおか戦略の推進の程度を図るものが今回の指標であると考えている。よって、基本的には福岡市が責任を持って推進していくものであると理解しているが、良いか。

事務局：そうである。

委員長：主語がない、とのご意見もあった。

委員：福岡市が責任を持つ場合も、できれば部課まで明記して欲しい。それと、多様な主体を取りまとめる主体を書く必要がある。「多様な主体」という文言が多く使われているが、これについてもどこまでの NPO を対象として考えているのか。市がどこまで把握しているのか伝わってこない部分がある。

事務局：「多様な主体」は市に留まらず広い範囲を考えている。

委員長：環境局環境調整課がプラットフォームの責任を担う市の部課であることを明記して欲しい。

委員：少なくとも最初の立ち上げは行政がやらないと進まないだろう。

事務局：当面は、環境調整課において実施していく。

委員長：福岡市が持っている資源を生物多様性のためにどのように使うかを示して欲しい。他に意見はあるか。

委員：地域の保全目標を示し、その達成率を図るような考え方も必要ではないか。

委員長：指標の解釈だけでなく、そのような観点も含めていくと良い。

委員：資料 2 の具体的取組みの 0～4 等の評価について、もう少し説明をいただきたい。

事務局：個々の項目の中でいくつ当てはまるかを数値で出している。

委員：評価の項目がこれまでの議論の内容と異なるので、「評価」というのは別の表現にした方

が良いのでは。

委員長：この部分は基礎的資料で、あくまで参考ということで理解している。

委員：この資料を見ても、どの項目が該当して点数になっているのか分からないため、示し方を改善した方が良い。

事務局：表現や書きぶりについて、修正する。

委員：指標案の中の総合学習実施校数について、これは生物多様性に限ったものでなく環境教育全般を対象にしたものか。そうであれば、もう少し生物多様性に絞って抽出した方が良いと感じる。

事務局：数値の把握が難しい部分がある。

委員長：そのような不足する部分をプラットフォームや情報共有の場でカバーするか、必要であれば教育委員会に依頼を行うなど、数値を把握するための対応を進めていく必要がある。

委員長：緑地保全地区等の市民活動団体について、取組団体数程度は市として押さえておいた方が良い。他都市でもきちんと押さえているので、是非団体数を把握するようお願いしたい。今後緑地をどのように保全していくかは生物多様性に直結することであり、市民啓発にも重要な点になってくる。プラットフォームの構築を進める上でも、生物多様性に関する取組団体の数は、当然把握すべき情報であると考えます。

事務局：基礎となる情報であるので、把握に努めたい。

委員：そういった場合に、単に数だけでなく、活動内容についても把握して欲しい。どこが熱心でしっかり活動しているか等についても、把握しておく必要がある。行政だけでは限界があるので、そういった所もプラットフォームで把握していくべきことであると考えます。事業者や学校などで行われている取り組みについても、その中身や実態を把握して発信しないと浸透していかない。

事務局：ご指摘の通りと考える。

委員長：環境教育と連携して生物多様性に取り組んでいる企業もあると思うが、啓発だけでなく、事業活動そのものが変わっていかなければならない。

委員：数値の中身についての問題は様々な部分で今後出てくるはずである。今の段階でその議論は難しいので、だからこそ数値を示す際にその数値の意味、活用の仕方をしっかり考える「しくみ」や「主体」を考えておくことが重要である。最初から完璧なものを作るのは困難なので、仕組みを作り、運用しながらレベルアップできると良い。

事務局：指標は適宜良いものに変えていきたい。また、単に数値を示すだけでなく、中身をしっかりと説明できるようにしていきたい。

委員：指標は3月末に確定して、その後どういう形で公表するのか。一般市民に対してどう示すのか。

事務局：数値や取組状況をまとめて示す。現状ではフォーラムやHPでの公表を想定している。

事務局：市の年次報告書に載せるのが一つの方法と考えている。それだけでは浸透性は低いので、フォーラムや環境学習室である「まもる一む」、その他幅広い方法で周知したい。

委員長：資料2の9ページの都市部の緑地について、民有緑被地の面積や公共施設の緑化率等も出せないか。条例で具体的数値を示している都市もある。新しく建設する施設等に

については緑被率等の情報があるはずなので、その情報収集をお願いしたい。

事務局：どこまで把握できるかわからないが、入れる方向で検討したい。

事務局：アイランドシティについては環境配慮指針に則る形で緑化を進めている。みどりのまち推進部で緑化の義務化も検討しており、今後何らかの形で民有緑地の数字は上がると期待している。今後も関係課と連携しながら数値を把握していきたい。

委員長：資料2の10ページの緑のカーテンプロジェクトについて、もう少し何か加えられないか。NPO団体数を入れても良いのではないか。

事務局：活動団体数の実態把握は進めていきたいと思うので、今後検討していきたい。

委員：指標の公表について、「指標策定した」ということだけ公表するのか。指標の評価の前提となる数字についても、分かる範囲で示す必要があるのではないか。

事務局：示すことのできる初期値は公表する予定である。

委員長：年次報告書への記載スケジュールはどのようになっているのか。

事務局：まず3月末で指標を固める。H25年度は数値の収集とアナウンスを行い、H26年度から公表することを想定している。

委員：市の広報等に掲載することは可能なのか。

事務局：スペースの確保の問題もあるが、可能である。

委員：資料3の「③運用後適宜検討」については、データが揃わないものについては、今後積極的にデータを取っていくつもりはあるのか。将来的にも実施困難なものは仕分けても良いと思われる。

事務局：頂いたご意見で「③運用後適宜検討」となっているものについては、短期、中期、長期に分けて仕分けし、出来そうなものから対応していきたいと考えている。

委員：仕分ける際に注意して欲しいのは、NPO等が個別でデータを持っていて利用できるという可能性もあるので、しっかり調べておいて欲しい。

委員：ヒアリング意見の中にもあるが、市民への分かりやすさを考えると写真展を開くのはインパクトがあってよいのではないか。プラットフォームで写真や動画を蓄積し、HP上でアップすること等の対応をとれば、市民に分かりやすいと思う。例えば、カーテンプロジェクトも写真を見るとインパクトがある。

事務局：ご意見を踏まえ、写真展については環境学習室等で実施していきたい。

委員長：森林面積について、植生調査結果を活用して自然林と人工林で分けるとの説明があったが、アカマツ林等もう少し細かく示せないか。

事務局：植生調査の区分は細かいので、ある程度まとめた形で指標の中で示していきたい。

委員：植生自然度を使った区分方法というのものもある。

委員長：福岡市で課題となっている農地や松枯れ等と関連のある植生の見せ方が必要と感じる。

事務局：来年度は丁度植生の自然環境調査に該当する年なので、ご意見を参考に実施したい。

委員：「戦略」であるので、この10年間で如何に福岡市の生物多様性を向上させることができるかが重要であり、それを議論するための場を継続して持つべきである。評価し、いかに向上させるかを考え、さらにそれを市民に発信することが重要である。

事務局：そのように考えたい。

委員：学校教育、食育の観点は入らないか。例えば、地場産食材を使った学校給食の割合など、

何らかの形で、一つは指標を入れていただきたい。

事務局：データはあるが、数字の伸びが見込めないため躊躇していた部分があった。何らかの形で指標として示していきたい。

委員：金額ベースでも良いのではないか。地域経済に対する影響も知ることができる。また、学校での電力使用量、節電に取り組んでいる学校の数等、環境に関する学校の取組みも指標の1つとなり得ると考える。学校での取組を評価できる指標の検討をお願いしたい。

委員：生物多様性の浸透を考えると、インパクトのある広報を検討して欲しい。発表の機会はワンチャンスのみであり、その際、分かりやすく説明する工夫が必要である。例えば、「生物多様性写真コンテスト」のようなイベントは、分かりやすくインパクトがあると思う。なお、現在はまだ推進体制の部分が曖昧なので、公表する際には、しっかりと固めた上で行う必要がある。

委員長：戦略とも関係するが、「誰が何をするか」を明確に、具体的にすること。

委員：NPOだけでなく、他の団体・主体との連携も考えること。

委員長：繰り返しになるが、具体性を持つことが必要である。「公」だけではできないので「民」といかに協働して、取り組みを広げていくか。プラットフォームは各団体の活動紹介だけでなく、多様な主体が戦略や指標を評価・議論していく場としていくべきと感じる。

委員：プラットフォームには団体間を結びつける力が必要である。

委員：団体間の協力は重要である。唐原川流域では各エリアのNPO団体が連携して協力体制を構築している。

委員長：パートナーシップは重要である。関連計画と連携していくことを含め、具体的にどう取り扱っていくかが今後の課題である。関連計画の重点政策をモニタリングしていく等の対応を進めていくことを期待する。その他意見はあるか。

委員長：委員にお聞きしたいが、山エリアという表現は適切か。

委員：農地は普通山には入らない。里山エリアという表現が適切かも知れないが、山でも良いのでは。

委員：農地は市全域に入ると解釈すれば良いのではないか。

委員：組織を維持するためには誘引（モチベーション、利益）が必要である。プラットフォームを維持することに利益のある団体は現時点では福岡市である。情報共有のため各団体に更なる連携・協力を依頼するなら、インセンティブを与えて動かす仕組みづくりの検討が必要である。企業やNPOの利益になるような仕組みづくりが出来れば、継続して続くと思われる。ある程度民間に任せられるように、インセンティブの仕組みを検討していただきたい。

事務局：ご意見の内容について、今後検討していきたい。

委員長：横浜市ではみどり税がある。福岡市でもそのような税を導入し、参画する団体には税優遇を行う等、目に見えるメリットを与えると効果的である。また、景観賞など既存のツールもあるので、それらも活用して多角的に考えると良い。

委員：「生物多様性ふくおか戦略室」まで行かなくとも「生物多様性ふくおか戦略チーム」を立

ち上げてはいかがか。

事務局：現時点で行政内での連携は進めており、チームといえばチームである。打ち出し方を検討していきたい。

委員長：議論はこれまでとしたい。進行を事務局へお返りする。

■ 今後のスケジュール確認（事務局より）

以上